



たいじゅ

大樹



平成23年度 鹿嶋市立平井中学校 第3学年通信 No.26 平成23年10月28日発行

♪ 11月。

日	月	火	水	木	金	土
10/30	31	1 専門委員会	2	3 文化の日	4 県学力診断 テスト	5
6 合唱祭 文化祭	7 振替休業	8 韓国視察団 来校	9 ←2年宿泊学習→	10	11 進路説明会	12 市防災訓練
13 県民の日	14	15 授業参観 親子スポーツ大会	16 県駅伝大会	17 市音楽会 (合唱金賞入)	18 租税教室	19
20	21	22	23 勤労感謝の日	24 ←期末テスト→ ←三者面談→	25	26
27 青少年のための 科学の祭典	28 ←三者面談→	29	30	12/1	2	3

11月の目標
読書をしよう。
きまわりを守ろう。(規範意識、服装、時間など)。

♪ 進路情報。

推薦入試についての説明は今回で終わります。

以前に「推薦入試は誰でも受験できるわけではない」と書きましたが、いろいろな部分で受験資格や基準が設けられているためです。今回はその点について説明します。

まず、推薦入試は、その学校への入学を第一志望とすることが条件です。はじめに推薦ありきで、**A高校の推薦入試を受けようと思っていれば基準に届かないので、基準に届くB高校で推薦入試を受ける、というわけにはいきません。**B高校の推薦入試を受けるには、B高校に入学したい、という強い気持ちを持っていることが条件だからです。

また、一口に推薦といっても、**どういった点で推薦して欲しいのか**を明確にする必要もあります。高校側では、「**学習面による推薦**」と「**部活動による推薦**」を二本柱として考えています。
「学習面による推薦」の場合、高校によって微妙な違いがありますが、普通に一般入試のペーパーテストを受けても余裕で合格できるであろうレベルが求められていますし、多くの高校で四年制大学進学を希望する者という条件もつけています。
「部活動による推薦」については、中学校時代に特定の部活動で実績を残し、高校入学後もその部活動に取り組む強い意志があることを条件としているところがほとんどです。ただし、中学校には存在しない陸上部やボート部、弓道部などで推薦を受け付ける場合もありますが、だからといって合格するための手段としてそれらの部活での推薦をねらうということは認められません。また、「高校入学後もその部活動に取り組む強い意志がある」ということは、合格した場合、基本的に**その部を退部するわけにはいかない**ということになります。
「学習」・「部活動」 いずれにしても安易な気持ちで推薦を希望することのないようにしてほしいものです。

ところで、前回は推薦入試で面接や作文が課せられることを書きましたが、いきなり試験当日に面接や作文に臨んでも上手くいくわけがありません。そこで、推薦入試を受験することが本決まりになった生徒に対し、事前に練習を行います。面接であれば放課後に残ってもらい、模擬面接。作文であればいろいろな題について宿題の形で。それに費やす時間と労力はかなりのものです。それで合格できればその苦労も報われるのですが、仮に不合格だった場合、面接や作文の練習に費やした時間と労力は水の泡です。そういった意味でのリスクも背負っているということも考えた上で、推薦をねらうか、一般入試で行くかをよく考えてください。

